

革新的なデジタルツインコンピューティングで社会DXの実現をめざす IOWN 推進室

NTT データでは、NTT の R&D 構想 IOWN で創出されるデジタルツインコンピューティング (DTC) などの革新技術を積極的に活用し、複数の組織・業界をまたがる社会全体の DX (デジタルトランスフォーメーション) による、新サービスや新産業の創出をめざしている。その実現に向けて NTT データの IOWN 推進室では「デジタルツイン共創プログラム」と「IOWN 共通テストベッド」の2つの取り組みを進めている。

未来の姿を容易に検証可能な「デジタルツイン共創プログラム」

デジタルツインの実現に向けては、現実空間の、ヒト・モノ・コトのさまざまなデジタルコピーをサイバー空間上に生成し、それを使ってさまざまなシミュレーションを実行する必要がある。その際、必要な技術やデータ、検証環境、エキスパート人材が十分確保できないことで、試作・検証で頓挫し、有用性の確認まで至らないケースが見受けられる。

これに対して、NTT データでは「デジタルツイン共創プログラム」を2022年4月に開始した。IOWN をはじめとする先進技術アセット、NTT

グループが保有・利用可能なデータ、データ分析や AI、シミュレーションなどの技術に精通するエキスパート人材を提供することで、お客様やパートナー企業とともに社会変革・社会課題解決に向けたデジタルツインサービスを創出するプログラムである。本プログラムを通じて、IOWN 技術を活用した多種多様の社会 DX サービス実現にチャレンジできる。

先進アセットを結集した「IOWN 共通テストベッド」

さらに、IOWN 技術の検証環境として「IOWN 共通テストベッド」を開発し事業組織に提供している。デジタルツインサービスの実現には、



株式会社 NTT データ
技術革新統括本部
技術開発本部
IOWN 推進室長 吉田 英嗣氏

処理対象のデータの量も膨大で、データ分析やシミュレーション等、要求される技術・リソース準備は多大な時間・コストを要する。この課題を IOWN 共通テストベッドにより解決する。

大容量かつ多様なデータをセキュアに扱える「データ連携基盤」、デジタルツインアプリケーション開発を簡易にする「DTC フレームワーク」、認証等の「共通機能」を提供する。テストベッドに搭載される技術アセットには、NTT 研究所成果に加え、OSS を含む市中の先進技術も搭載される。デジタルツインの試作・検証活動を高速・高信頼に繰り返すことを可能にし、検証の成功率向上をめざしている。

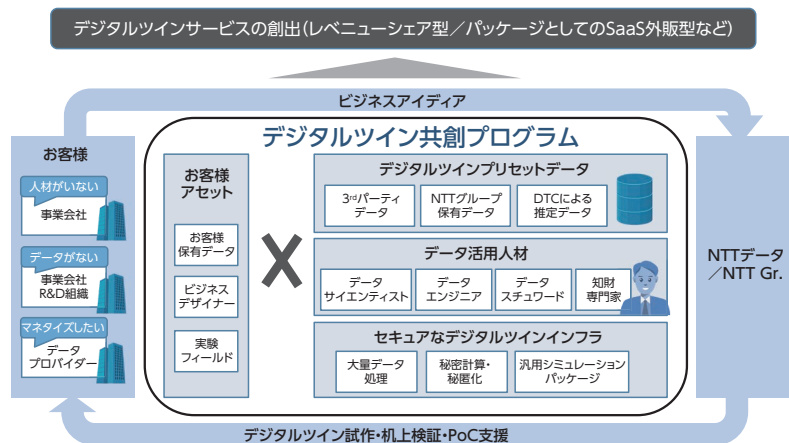


図1 デジタルツイン共創プログラム